

# 令和5年度小学生版「食品ロスダイアリー」実施結果

堺市環境事業部資源循環推進課

## 1. 実施概要

### (1) 目的

食品ロスをはじめとしたごみの問題は、毎日の生活に密着しており、学童期からごみの減量化・リサイクルへの関心と理解を深めることが重要である。市内小学生に対し、環境問題に高い意識を持つ人材の育成、保護者の環境意識の向上を目的として、各家庭で食べずに捨ててしまった食品の種類や量等を一定期間毎日記録する食品ロスダイアリーの取組を学校単位で実施した。

### (2) 期間

申込期間：令和5年5月16日（火曜）から6月9日（金曜）

実施期間：令和5年6月から12月の任意の7日間

### (3) 対象

市内の小学4～6年生

募集人数：2100人

参加人数：1268人

配布数：1371冊（先生用を含む）

アンケート回収数：561

有効回答数：496

## 2. 調査結果

### 2-1. 小学生アンケート結果（有効回答数 496）

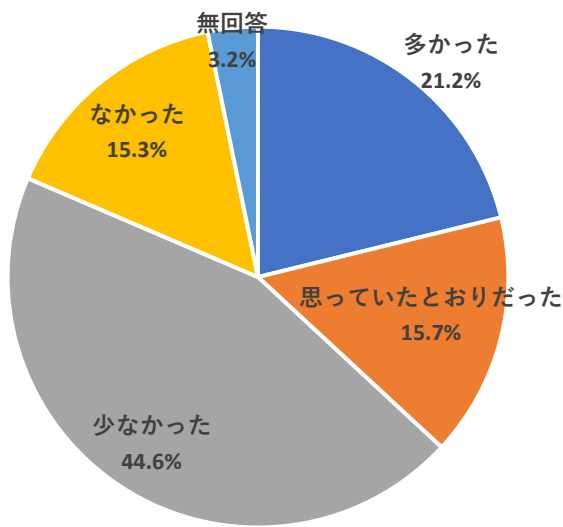
#### (1) 7日間の食品ロス重量 263,594g

食品ロスの種類	食べ残し	手つかず食品					
		野菜・果物	魚・貝など	肉	たまご・牛乳	おかし	その他 パン・ごはん・めん類など
回答者総重量	140,312g	57,419g	5,210g	9,749g	10,939g	6,776g	33,189g
		123,282g					

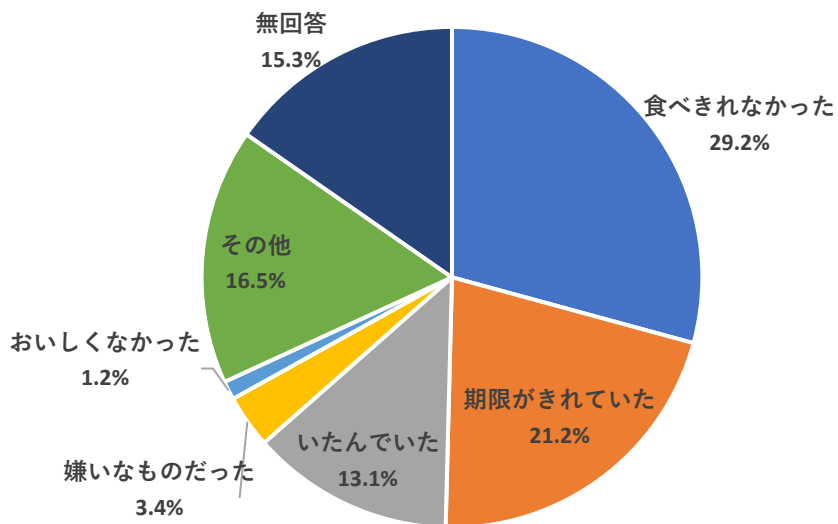
(2) 7日間のうち、食品ロスは何日出ましたか。

食べ残し		手つかず食品	
0日	25.4%	0日	33.5%
1日	13.7%	1日	16.5%
2日	12.5%	2日	13.3%
3日	11.5%	3日	8.5%
4日	9.5%	4日	7.3%
5日	6.0%	5日	5.8%
6日	5.4%	6日	2.8%
7日	9.7%	7日	5.4%
無回答	6.3%	無回答	6.9%

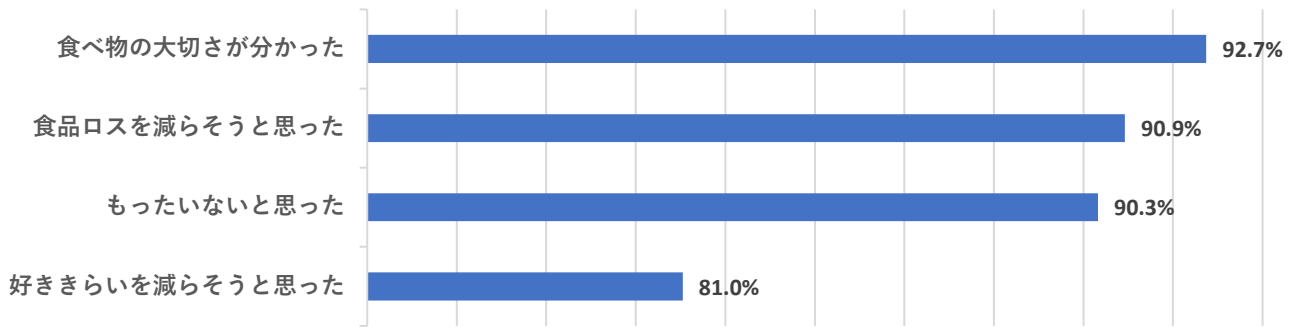
(3) みなさんのおうちの食品ロスは、思っていた量と比べてどうでしたか。



(4) どの理由で捨てたことが一番多かったですか。

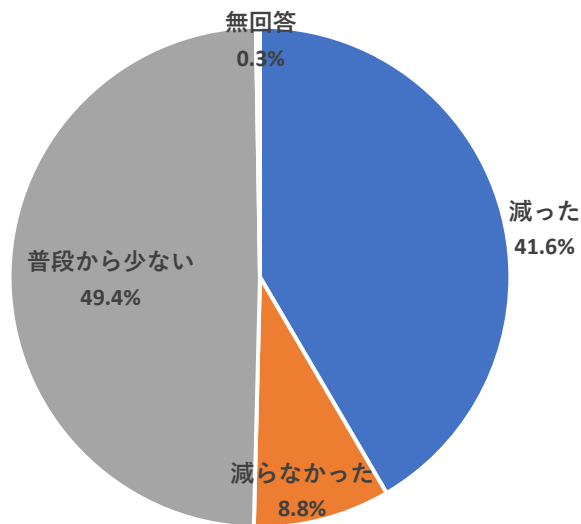


(5) ダイアリーに取り組んでみて、どう感じましたか。

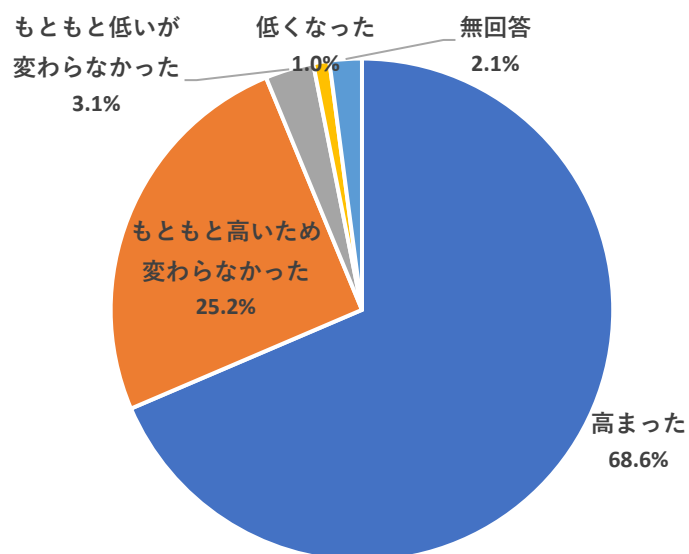


## 2-2. 保護者アンケート結果（有効回答数 385）

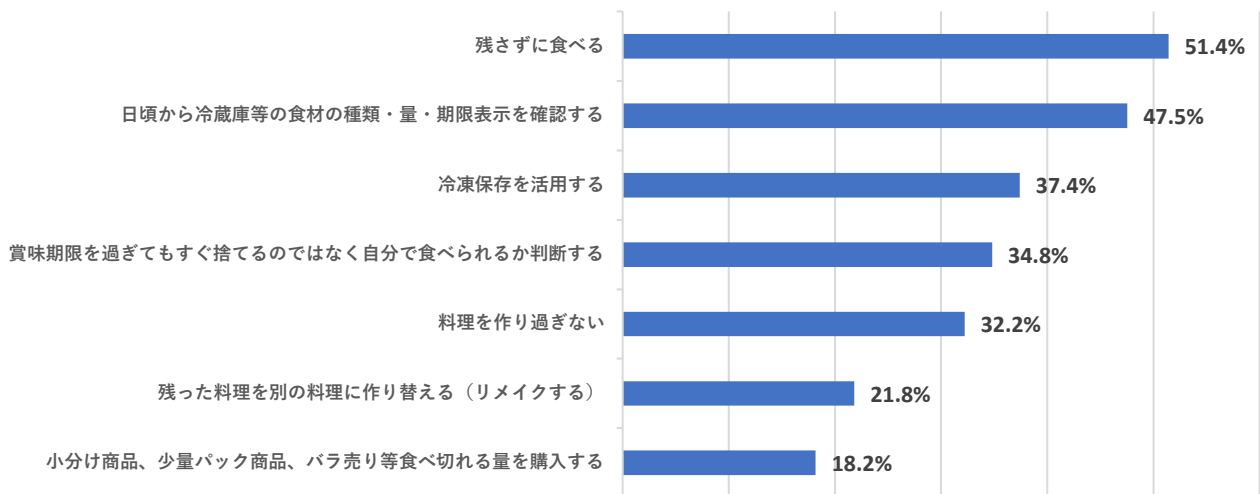
(1) 取組実施により、食品ロスは減りましたか。



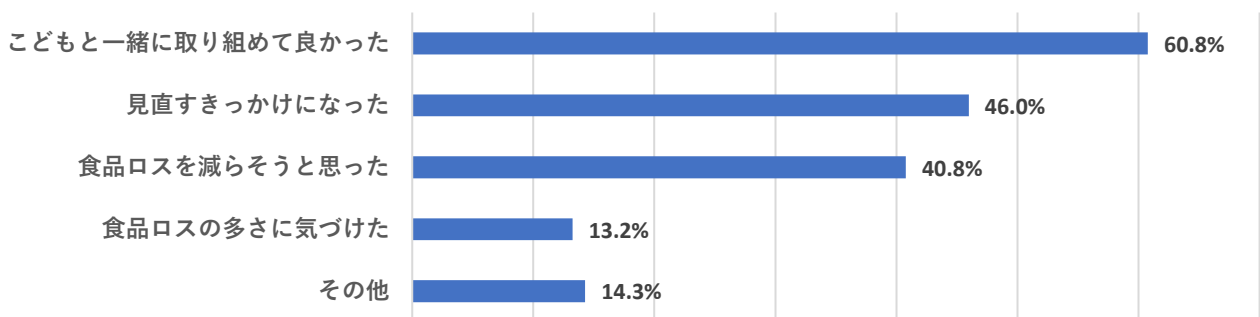
(2) 実施後、食品ロスを減らそうという意識がどのように変わりましたか。



(3) 実施前と比べて取組意識が高まったものはありますか。



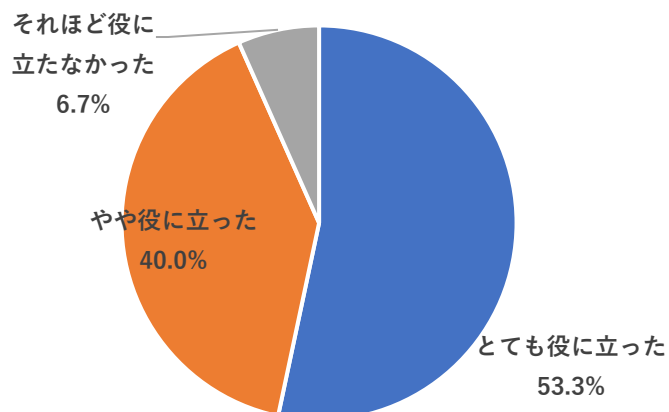
(4) お子様と一緒に取り組んだ感想や、ご自身の食品ロス削減への意識や行動等についてあてはまるものはありますか。（自由記述は一部抜粋し掲載）



- ・日頃から食品類を買い過ぎないように考えたりしていることが、子どもと一緒に食品ロスダイアリーに取り組んだことで、子どもに自然に伝わって良かったと思いました。
- ・今回の取組以降、「食品ロスになるから頑張って食べようね!」という声かけが増えました。
- ・普段から食品ロスに気をつけているので、意識して行動することがなかったです。
- ・子どもが毎日、食品ロスは無いかな、買い物で多すぎたりしないか聞いてくることもあり、親も子どもと一緒に考える良い機会でした。
- ・買い物に行く前に冷蔵庫の中をチェックするようになりました。何が原因でロスしたのかを知り、反省する事ができて良かったと思います。
- ・子どもと一緒に取り組むことで、子どもに賞味期限切れや食材を捨てていることを指摘され、より食品ロスを減らす意識を高めないといけないと感じました。また、子どもも、親から注意されるよりも自発的に取り組む方が、イキイキとしていました。
- ・普段からロスを減らすというより、残さないように気をつけています。今回、残した物を量るということで普段から食材、食品を捨てていないんだなあと改めて思いました。
- ・野菜などの好き嫌いが多いのですが、この取組をきっかけに少なくなったように思います。私も無駄な物は買わない、賞味期限を確認するなど、再度見直したいと思いました。

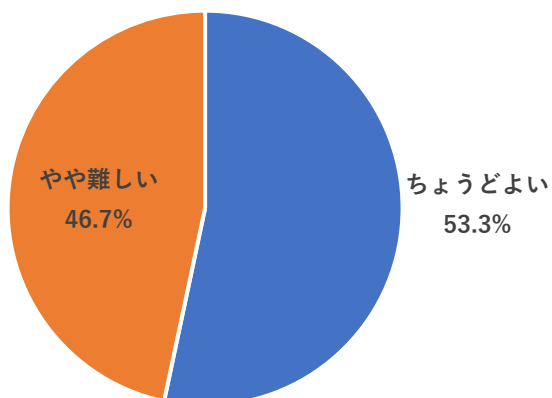
### 2-3. 参加小学校先生アンケート結果（15校）

#### (1) 食品ロスダイアリーを活用したごみ減量の学習について



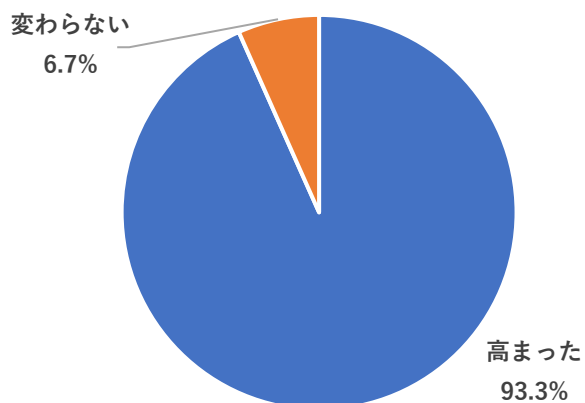
「とても役に立った」と答えた学校が8校、「やや役に立った」と答えた学校が6校、「それほど役に立たなかった」と答えた学校が1校で、「全く役に立たなかった」と答えた学校はなかった。「それほど役に立たなかった」と答えた学校からは、「あまり取り組んでもらえなかったため」という意見があった。

#### (2) 食品ロスダイアリーの学習内容について



「ちょうどよい」と答えた学校が8校、「やや難しい」と答えた学校が7校で、「とても難しい」と答えた学校はなかった。「やや難しい」と答えた学校からは、「保護者の協力が必要であるため」という意見があった。

#### (3) 食品ロスダイアリーに取り組むことによる、食品ロス削減の児童の意識について



「高まった」と答えた学校が14校、「変わらない」と答えた学校が1校で、「低くなった」と答えた学校はなかった。

(4) その他、今回の取組についてのご意見・ご感想をご自由に記載してください。(一部抜粋し掲載)

- ・一回取り組んだことで、その後も「食品ロス」という言葉が出てきたり、給食のおかわりをする子が増えたりした。意識するようになったことが大きな一歩だと思います。
- ・夏休みの宿題として取り組んだことにより、子どもたちも保護者の方も食品ロスに目を向け、少し意識が高まったと思います。
- ・夏休みの宿題として児童らに紹介しましたが、保護者の方の協力も必要なため、期待するほどの結果が得られませんでした。
- ・「残量を量る」活動が家庭によって差があると感じました。ただ、活動に取り組むことで、意識は高まったと思います。

### 3. まとめ

今年度の小学生版「食品ロスダイアリー」(以下、「ダイアリー」という。)では、参加人数 1268 人中 496 人分の有効回答が得られ、回収率は 39%であった。小学校単位での募集であり、学校によっては夏休みの自由課題としての使用や、授業内のみでの使用(家庭での食品ロス計量未実施)であったため、全体的にアンケートの回収率が低くなった。参加小学校の先生アンケートでは、自由課題の参加者が少なかった要因として、保護者の協力を得ることが難しかったことや計量作業が難しかったこと、食品ロスが出ておらず取り組むイメージがつきにくかったことが挙げられた。

小学生アンケート「おうちの食品ロスは、思っていた量と比べてどうでしたか。」の設問では、「少なかった」、「なかった」と答えた児童が合わせて 6 割程度であり、保護者アンケート「取組実施により、食品ロスは減りましたか。」の設問では、およそ 5 割が「普段から少ない」と答えており、普段から食品ロスの削減を意識している家庭が多いことがわかった。しかし、9 割以上の児童がダイアリーに取り組んで、「食べ物の大切さが分かった」、「食品ロスを減らそうと思った」、「もったいないと思った」と答え、およそ 7 割の保護者が「実施後、食品ロスを減らそうという意識が高まった」と答えていることから、ダイアリーの取組によって児童・保護者ともに食品ロス削減に対する意識のさらなる向上があったことが見受けられる。

食品を捨てた理由として、「食べきれなかった」、「期限がきれていた」と答えた児童が多くなっているが、実施前と比べて取組意識が高まったものとして「残さずに食べる」、「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」を挙げた保護者が多く、ダイアリーの取組によって食品ロスの発生原因を知り、実際に削減するための行動に結び付いたことがうかがえる。家庭で児童が自発的に食品ロスを減らそうとする行動が見られたと答える保護者が複数いたことや、家庭のみならず学校においても食品ロスを意識する姿勢が見られたという回答があったことより、ダイアリーは、普段食品を扱う機会が少ないと考えられる児童にとって、より食品ロス問題を身近に感じ、ロス削減に取り組むきっかけとなりうる手段であると言える。さらに、児童の取組に保護者の協力を得ることで、食品ロスの削減に直接影響する保護者の意識変容にも効果が見られる結果となった。